

平成 22年 4月 23日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19530187

研究課題名 (和文) 日米欧の消費需要行動に関する実証分析

研究課題名 (英文) Empirical analysis on consumer behavior in Japan, US and Europe

研究代表者

牧 厚志 (Maki Atsushi)

東京国際大学・経済学部・教授

研究者番号：20051906

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済統計学

キーワード：計量経済学・消費需要分析

1. 研究計画の概要

日米欧三極にわたる消費者行動についてデータに基礎を持ち、計量経済学的手法によって比較する実証分析である。今回はこのような総合的な研究を計画しており、学術的に意味のある結果が期待できる。

具体的には日米の間では耐久消費財に関する比較分析を行う。日欧では高齢者消費需要及び資産蓄積・取り崩し行動に焦点を当てた分析を行う。高齢者消費需要は多分に社会保障制度、年金制度に依存すると思われるが、従来は消費の中身にまで目を向けた分析は少なかった。日欧比較において、政策的な観点からも実証分析の結果を生かすことができればよい。

日米欧という三極をテーマにして、日米、日欧の比較研究をしたあと最終的に三極の統合をする。

2. 研究の進捗状況

ほぼ計画通りのスケジュールである。

日本の消費者行動に関して、全国消費実態調査を使った分析を行った。分析結果を見ると、日本のバブルとその崩壊によって家計部門の資産・負債構造に大きな変化があった。さらに、このようなバブルのショックが永続的に消費行動に影響を与えるものなのか否かについて、全国消費実態調査報告を利用した実証分析は、本の一章で纏めた。ここでは、バブル以前と以後の消費者行動についていわゆる経済的「ショック」が起きたときにその効果が一時的か経時的かについての仮説を立て、統計的検定を行った。実証分析の結果では、バブル崩壊の行動に戻った年齢階級もあるが、そうでない年齢階級もあった。

また、家計調査と金融資産価格を利用した

分析の拡張を行った。この分析は消費一資産価格モデルと呼ばれるが、従来の研究では確率割引要素として消費総額を考慮するのが通常であった。しかし今回の分析では、消費総額を分割して、多費目に拡張した。その目的は、消費総額に含まれている個別消費の性質を考慮すると、所得効果や相対価格効果によって、個別消費の構成自体が変化するという観測事実が消費分析の結果から確認されているからである。

ヨーロッパに関しては個表を使った分析を行い、平成19年3月にディスカッションペーパーの形でまとめた。ヨーロッパのデータでは特に高齢者の消費行動と男女の等価尺度について検討し、男女間で消費行動に変化があることを確認し、さらに、食料費に関しては従来使われてきた成人単位の有効性は現在でも保持されていることを確認した。さらにヨーロッパの消費行動を日本の消費行動とも比較を行った。ヨーロッパに関連した分析に関しては、新しいデータが加わり、平成19年末にDPとして予備的な結果を纏めたが、それ以後新しいデータが公表されており、それらの新しいデータセットを利用した分析を行う計画の下、順次分析を計画している。

アメリカデータでは、アメリカ合衆国労働統計局で作成されたデータに関して解析を進めている。一連の分析が、国際ジャーナルのアクセプトされ、2010年1月に刊行された。ここでは経済統計に関する誤記入の問

題を耐久消費財購入行動をベースにして分析した。日本のケースと同様に、アメリカでも誤記入の可能性は否定できなかった。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 研究実績として海外の査読付ジャーナルに2本公刊され、また、海外の査読付ジャーナルに投稿中の論文がある。また、著作として、単著が1冊、書籍の1章になったものが1冊ある。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度はこれまでの成果をまとめることである。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

①, Eitaro Aiyoshi and Atsushi Maki "A Nash equilibrium solution in an oligopoly market: The search for Nash equilibrium solutions with replicator equations derived from the gradient dynamics of a simplex algorithm," *Mathematics and Computers in Simulation*, 79, May 2009, 2724-2732.

②Atsushi Maki and Thesia I. Garner "Estimation of the Misreporting Models using Micro-data Sets derived from the Consumer Expenditure Survey: The Gap between Macro and Micro Economic Statistics on Consumer Durables," *Journal of Mathematical Sciences: Advances and Applications*, 4, January 2010, 123 - 152

[学会発表] (計2件)

①発表者(牧厚志) "A Nash equilibrium solution in an oligopoly market: The search for Nash equilibrium solutions with replicator equations derived from the gradient dynamics of a simplex algorithm," International Congress on Modeling and

Simulation 2007 (MODSIM 07), Christchurch, New Zealand, December 2007.

②発表者(牧厚志) "The robustness of a Nash equilibrium simulation model" International Congress on Modeling and Simulation 2009 (MODSIM 09), Carns, Australia, July 2009.

[図書] (計2件)

①牧厚志『消費者行動の実証分析』、日本評論社、2007年。

②北村行伸編牧厚志著「経済行動の安定性 NSFI Eマイクロ・データによる分析」、『応用マイクロ計量経済学』、日本評論社、201年2月, pp.3-24。